

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年8月14日

【評価実施概要】

事業所番号	4070801164		
法人名	株式会社 ホームケアサービス		
事業所名	グループホーム 青葉の里		
所在地	福岡市東区青葉6丁目43番11号 〒813-0025 (電話) (092)691-8263		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成19年8月1日	評定確定日	

【情報提供票より】(平成19年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成15年2月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	8人 常勤	4人 非常勤	4人 常勤換算 6.7人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1階建ての～	1階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(50,000円)	無		
保証金の有無(一時金を含む)	有(円)	有の場合償還の有無	有無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日あたり		1,400円程度	

(4) 利用者の概要(3月1日現在)

登録人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	1名	要介護2	4名		
要介護3	2名	要介護4	2名		
要介護5	0名				
要支援1	名	要支援2	名		
年齢	平均 82歳	最低	68歳	最高	90歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 原土居病院 もろおか歯科 訪問看護ステーション・ホームケア
---------	------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

東区の住宅地に居を構え、駐車場の奥に見える中庭にはウッドデッキや鉢植え、ベンチなどが備え付けられくつろげる雰囲気がかえる平屋家屋である。母体である病院長の実母が、病院の利用者や地域で暮らす高齢者が一日でも長く地域で暮らしていけるようにとの想いをもち、自立支援・入居者と家族の相互理解、地域との馴染みの関係作りを理念として開設された。母体である、医療機関との連携をとりながらの支援は勿論、地域とのかわりについても、入居者の多くが同校区に住み慣れてきたこと、日常的な散歩や公園の清掃活動、ホームの忘年会などへの地域住民の参加を通じて「ホーム」と「地域」の交流を超え、「入居者」と「住民」との顔見知り、馴染みの関係づくりに取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価結果を受けて、運営推進会議で報告し、記録の改善へ取り組むなど具体的な改善事例が見られる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の外部評価に際して、職員全員で自己評価を行い、事業所の現状について検証する機会とした。今後も、外部評価の項目の理解や熟知とあわせて職員全員で自己評価を行ない、事業所の全貌や状況の把握に努めてほしい。今回の外部評価の結果報告をもとに職員一人ひとりの考察やアイデアをもって更なる改善への取組を期待する。
重点項目	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 自治会、民生委員、老人会、町内会組長、包括支援センター職員、家族に参加していただき、昨年の秋より2ヶ月毎に開催している。外部評価の結果や活動報告、レクリエーション体験などを行い、公民館活動や老人大学、盆踊りなどの情報提供や参加検討を行うなどの取組がある。地域包括センター職員の運営推進会議への参加や、市職員の視察などを通じて情報交換を行うなど、質の向上に向けた取組がある。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9) 家族からの意見は勿論、不満・苦情に関しても、面談時などに管理者へ直接告げられることが多く、苦情の窓口として意見しやすい雰囲気づくりへの取組があり、苦情や要望にもその都度対応している。意見箱の設置や、家族会などで提案できる機会を設けており、職員会議や本部会議で検討している。家族用の駐車場所の確保など、運営に反映させた取組がある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の自治会へ加入し、運営推進会議等で情報を収集し、清掃活動や行事等に参加している。もともと、地域からの入居者が多いこともあり、散歩時の近隣への声掛け、お花を差入れていただいたり、花や野菜の苗植えや消毒の手伝い、ホームでの忘年会や鏡開きへの参加など、日常の交流を通じて馴染みの関係づくりに取り組んでいる。

2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	母体である病院長の実母氏が、病院の利用者や地 域で暮らす高齢者が一日でも長く地域で暮らしてい けるようにとの想いをもち、「自立支援」、「入居者と家族 の相互理解」、「地域の方達との馴染みの関係作り」 を理念として掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの中にも掲示し、職員会議などで唱和し職員 全体で理念の確認を行なっている。また、運営推進会 議の中でも、理念の説明を行うなど、理念の共有と実 践に向けて日々取り組んでいる。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	地域の自治会へ加入し、運営推進会議等で情報を 収集し、清掃活動や行事等に参加している。もともと、 地域からの入居者が多いこともあり、散歩時の近隣 への声掛け、お花を差入れていただいたり、花や野 菜の苗植えや消毒の手伝い、ホームでの忘年会や鏡 開きへの参加など、日常の交流を通じて馴染みの関 係づくりに取り組んでいる。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	前回の評価結果を受けて、運営推進会議で報告し、 記録の改善へ取りくんだ。今回の外部評価に際して、 職員全員で話し合いながら自己評価を行い、事業所 の現状について検証する機会とした。		管理者及び職員の入れ替えも見られることから、 外部評価の項目の理解や熟知とあわせて職員全員 で自己評価を行ない、事業所の全貌や状況の把握 に努めてほしい。今回の外部評価の結果報告をもと に職員一人ひとりの考察やアイデアをもって更なる 改善への取組みを期待します。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会、民生委員、老人会、町内会組長、包括支援センター職員、家族に参加していただき、昨年の秋より2ヶ月毎に開催している。外部評価の結果や活動報告、レクリエーション体験などを行い、公民館活動や老人大学、ラジオ体操、盆踊りなどの情報提供や参加検討を行うなどの取り組みがある。		今回の外部評価の結果報告や、事業所の課題などを地域や行政、第三者の視点を持っての意見、提案を募るなどの具体的な検討をしていただきたい。運営推進会議が、より、具体性をもった入居者や地域にとって有益な話し合いの場になることを期待します。
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センター職員の運営推進会議への参加や、市職員の視察などを通じて、情報交換を行うなど、サービスの質の向上に向けた取り組みがある。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	勉強会や研修会を行ない制度の理解を深める取り組みがある。家族会で、パンフレットや資料、冊子の配布や説明を行うなどの情報提供がある。実際に制度を活用された事例もある。		本人・家族へは資料配布の他に、個々の必要性について話し合いの機会を持つなど、繰り返しかつ積極的に説明して頂きたい。また、入居者・家族からの要望があった場合等、職員全員が正しく対応できるように継続的な勉強会や研修の開催などの取り組みを期待します。
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の家族新聞で、行事や利用者の暮らし振りの報告、職員や入居者の入れ替わり等を報告している。又、家族の来所持に個々の現況報告、健康状態などを伝え、金銭管理についても出納帳を提示し確認をとるなどの取り組みがある。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見は勿論、不満・苦情に関しても、面談時などに管理者へ直接告げられることが多く、苦情の窓口として言い出しやすい雰囲気がある。意見箱の設置や、家族会などで提案された家族用の駐車場の確保など、運営に反映させている。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職の際は特に退職には触れず、入居者との関係を突然断ち切るのではなく、フェイド・アウトを図るなど、入居者へのダメージを抑える配慮をしている。新人の職員についても管理職や他の職員がメインでかかわるなど徐々に馴染みの関係を作っていくような工夫がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別や年齢に関して採用の制限は無いが、雇用形態や条件は若干差異がある。3ヶ月の試用期間を経て本採用となる体制である。職員はそれぞれが、聞き上手であったり、掲示物の作成が得意であったりと、それぞれの長所や能力を活かすよう役割を分担している。資格取得を目指す職員が多く、受験の為に勤務の調整や、母体である法人の勉強会への参加支援などが行われている。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎年、行政が行なう研修会や講話に職員が参加し、事業所内で受講報告会や勉強会を実施し、人権学習や啓発に取り組んでいる。		
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が新任のため、自ら研修へ参加し職員に対して受講報告会を行い内部研修を通じての育成にあたるなどの取組みがある。職員の外部研修に関しても、個別の経験やスキルに応じて参加を支援していく計画を検討中である。		事業所外の学習会や研修への参加等を計画立てて、新しい知識や技術の導入に研鑽され、質の向上へ積極的に取り組まれていくことを期待します。
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員は交代でグループホーム協議会の勉強会などに出席し、他事業所職員との交流の機会をつくれるように取り組んでいる。		他事業所との職員交換など、体験型の交流の機会を設けることにより、新しい気付きや発見をもって改善へと生かせるように、質の向上への取組みを期待します。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居や面接時、本人の様子を見ながらホームの茶話会に誘うなど馴染みの関係を作っていく取組みがある。また、入居後数日は、管理者が深夜まで付き添い本人の不安を軽減させる工夫や、本人が安心できるような家族との関係性を重視した支援を行っている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、入居者との日々の会話を通じて料理の仕方を教わったり、嫁と姑の関係など、長い人生経験の中から学び、入居者に職員の悩みを聞いてもらうなど、共に支えあう関係を築いている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居から2週間をメドに実施するアセスメントで、本人・家族の希望などを汲み取り、その後も日々の会話や観察を通じて把握し、毎月のカンファレンスの中で確認し職員全員で共有する取組みがある。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	入居に際して、面会時に得た本人、家族の情報などに基づき職員全員でカンファレンスを行い、2週間を目安にアセスメントを行い、ホーム協力医、訪問看護師などの専門的観点からの意見も盛り込んで職員全員で介護計画を作成している。		アセスメントで把握した内容をもとに、本人・家族の意向を反映し、自立支援や役割、楽しみの確保など、入居者本位の視点に立ち、入居者の暮らし方を支える計画となるような支援を期待します。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要 な関係者と話し合い、現状に即した新た な計画を作成している	毎月、職員全員でのカンファレンスを実施し全 ての入居者についての情報交換や確認を行 い、3ヶ月毎の介護計画の評価と見直し を行なっている。また、心身状況に 変化が生じた際もその都度対応し、 本人、家族、スタッフ、主治医を交 えて、現状に即した新たな計画を 作成している。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多 機能性を活かした柔軟な支 援をしている	本人・家族の希望にそ っての、その時々で できる限りの対応を 行なっている。入院 の際の付き添いや見 舞いなどの支援、散 歩中の地域の住民か らの相談対応等が 行われている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希 望を大切に、納得が 得られたかかりつけ 医と事業所の関係 を築きながら、適 切な医療を受けら れるように支援し ている	かかりつけ医への 受診は家族対応で 行われている。ホ ーム協力病院との 連携や在宅療養管 理指導について、 本人や家族へ説明 を行い同意を得た うえで、二週間に 一度の往診や、週 に一度の訪問看護 の受け入れなど、 適切な医療を受け られるような支援 を行なっている。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向 けた方針の共有 重度化した場合や 終末期のあり方 について、できる だけ早い段階から 本人や家族等なら びにかかりつけ医 等と繰り返し話し 合い、全員で方針 を共有している	入居者・家族に事 業所としての重度 化や終末期ケア への対応指針や母 体である医療機関 との連携を説明し 同意を得ている。		アセスメント等 の早い段階での重 度化や終末期にお ける本人と家族の 意向を確認し、関 係者全員で情報 を共有したいだ きたい。また、今 後予想される状 況変化に応じた 繰り返しの話し 合いと、本人・家 族の希望に添 った支援体制等 への取り組みを 期待します。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	職員への基本的な接遇や言葉かけ、記録における 表現の指導等は、入社時や研修時に指導を行ない、 その都度、注意する等の取組みがある。個人情報と なる記録や面会の問い合わせ等も規程に基づき注意 を払って、対応や取扱いをしている。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	起床や就寝時間は、その時の希望や状況に応じる など、一人ひとりのペースに添って支援する取組みが ある。散歩などの外出についても、一人ひとりに声 を掛け、その時の本人の希望やペースを優先して対応 している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	配食を利用しており、庭の畑で収穫した野菜を素材 に一品加えたり、月に一回料理の日を設けスタッフと 一緒に好みの物を調理するなど食事を楽しむ為の支 援がある。職員と入居者が、配膳の準備や下膳など を一緒に行なうなど和やかな雰囲気であった。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミ ングに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	基本は、1日おきの入浴であるが、職員の勤務状況 等の条件がそろえば、毎日でも入浴は可能である。 入浴を拒否される方には無理強いせず、足浴を行っ たり、タイミングを見合わせて声掛けをするなどの支 援がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	入所時の聞き取りと、日々の会話や様子を通じて、 本人の楽しみや、気晴らしを見出し、支援している。 洗濯物たたみなど簡単な作業や、午後のお茶会、家 族も一緒になってお化粧やお洒落などを楽しむなど、 それぞれの趣味や意向にそって取り組んでいる。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	海鮮料理やフランス料理の有名店への外食や花 見、買い物や日常的な散歩などの支援がある。外食 については、ミキサー食への対応など店からの協力 もあり、入居者全員に大好評であり、日常的な散歩も 3名毎に職員1名が付き添えるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	鍵を掛ける事の弊害を職員全体が理解し、鍵を掛 けないケアに取り組んでいる。近所の方の協力により 見守りが行われるなど、外出傾向のある入居者の方 へも適切な対応がなされている。現在は職員配置等 の関係から入浴時間中だけは危険防止の為、一時的 に施錠をすることで、家族や本人の了承を得ている。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身につ け、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	毎月10日に職員と利用者が避難経路や、手順につ いて話し合う機会を持つなどの取組みを行なってい る。またホームの忘年会に近隣の住民を招待するな ど日々の交流を通じて、緊急災害時の協力を得られ るような関係づくりへの取組みがある。		運営推進会議等で、地域や家族への協力を呼び かけ、避難訓練への参加や協働、災害時の協力体 制を確保できるような取組みを期待します。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日 を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	食事や水分の摂取量は一人ひとりの身体状況に応 じ、主治医と相談しながらスタッフがチェックを行い管理 している。栄養バランスは同法人内の栄養士が管理 し、心身状況や嚥下状態等により、ミキサー食にした り、小さい器に変えて食事を摂っていただくなど、栄養 の確保への工夫がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	ダイニングキッチンは出来るだけ動線を確保し、よし ずを掛けて採光を調整し、壁面の飾りつけがなされ、 圧迫感が無くゆったりと過ごせるような空間作りに努 めている。トイレや浴室は一般の民家と同様にブライ バシーの保護を重視し、安全に配慮した工夫がなさ れている。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	予めベッドと床頭台を準備し、家族と相談しながら、 馴染みの家具や人形、時計、写真を置いたり、読書 が好きな入居者は単行本と読書用の椅子があるな ど、本人が心地良く安心して過ごせるよう工夫がなさ れている。		

 は、重点項目。
(数字)は、国の標準例による番号